

# 平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 畜産試験場

所管グループ 研究開発グル-ブ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
1	豊かで魅力ある農業の振興	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定	本県の気象条件、立地条件に適した牧草・飼料作物の優良草種および品種を選定する。	国内外で育成改良された有望品種について、本県における生育特性、耐病性、収量性を調査し、奨励品種および優良品種候補に選定する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	家畜飼料の自給率向上に向け、品種特性を明らかにし地域特性に適合した生産指導を促進する上で必要と考えられる。	予算要求については、シーリングにより減少するが、従来手法の簡素化や情報提供の方法を改善の上で必要と考えられる。
2	豊かで魅力ある農業の振興	バイオテクノロジー等を活用した高度な技術開発	高能力家畜生産のための受精卵移植技術の開発	牛の受精卵移植技術による受胎率は、近年45%前後で推移していることから、受胎率に及ぼす要因を解明して受胎率の向上を図る。また、牛と同様に豚の受精卵移植技術を活用し、高能力豚生産の実証試験を行う。	現段階の受精卵移植での生産性向上に影響を及ぼす受精側の要因(生存性など)、受卵家畜側の要因(繁殖管理など)について改善・改良を加え、受胎率への反映を調査する。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	研究計画は明確にされており、実施すべきであると考ええる。	予算要求額については、シーリングにより減少する。手法については、農家の関心が高いため、試験を計画どおりに実施し、技術の早期確立に向け積極的に取り組む。
3	豊かで魅力ある農業の振興	バイオテクノロジー等を活用した高度な技術開発	DNA解析を活用した家畜の育種改良技術の開発	優良家畜の能力は、DNAで確認することができることから、DNAレベルの選抜技術を確立する。	脂肪交雑・枝肉重量・肉のおいしさ(牛)、産肉・産卵成績(鶏)の能力に關するDNA部位を検出し、優良家畜の選抜を行い再現性を確認する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	研究計画は明確にされており、実施すべきであると考ええる。	予算要求額については、シーリングにより減少する。手法については、農家の関心が高いため、試験を計画りに実施する。
4	豊かで魅力ある農業の振興	付加価値の高い農林水産物生産・加工技術の開発	機能性の高い生乳生産技術の開発	生乳中機能性成分を調査し、放牧等を取り入れた飼養管理や、機能性物質を含む飼料の給与によって、高付加価値成分を高めた生乳生産をめざす。	共益リノール酸や機能性ペプチドなど生乳中機能性成分を調査し、放牧等を取り入れた飼養管理や、機能性物質を含む飼料の給与による付加価値成分の高い生乳生産技術を開発する。	18	22	C	生乳中の機能性成分に着目した技術開発により、県内産生乳の高付加価値化、県内酪農の優位性が期待されるなど研究ニーズが高い。機能性成分の解明が進展していることから、研究対象とする物質はそれらの成果を踏まえながら選定していくことが望まれる。	評価は妥当である。日本人の代謝遺伝子にあった食べ物を理解することが必要。	予算要求については、シーリングにより減少する。手法については、研究ニーズが高いため、機能性成分の解明が進展している成果をふまえながら方法を変更して実施する。
5	豊かで魅力ある農業の振興	付加価値の高い農林水産物生産・加工技術の開発	高品質肉豚生産技術の確立	豚肉の高付加価値化・銘柄化による競争力強化のため、機能性食品の高度活用による豚肉の銘柄化と飼養環境の改善による高品質な豚肉の生産技術を確立する。また、未利用資源の活用により肉豚生産技術を開発する。	機能性食品の高度活用による豚肉の銘柄化や飼養環境の改善により高品質な豚肉の生産方法を検討する。また、未利用資源を活用した肉豚の生産方法を検討する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	評価は妥当である。日本人の代謝遺伝子にあった食べ物を理解することが必要。	シーリングにより予算は減少するが、日本人の嗜好特性や栄養特性を踏まえ計画通り実施する。
6	農林水産業の多面的機能の発揮	付加価値の高い農林水産物生産・加工技術の開発	国産飼料を活用した牛肉生産技術の確立及び畜産の多面的機能の解明	高栄養価国産飼料を活用し、国内飼料の自給率を高めた畜産物生産の手法を追求する。また、畜産が持つ生産活動以外の多面的機能を解明し、経済的価値として評価する。	消費者等を対象にアンケート調査を実施する。また、放牧とイネSGS等高栄養価国産飼料を活用した飼養体系について検討する。	18	22	C	畜産が持つ多面的機能の解明と評価についての研究は必要で実施すべきであるが、新たな研究体制下における関係部門と連携・共同し、効果的、効果的に進めていく必要がある。	重要かつ喫緊の課題であり、まず県内の先進取り組み事例の調査、および他の研究との連携を明確にした研究計画の見直しを期待する。是非とも実施いただきたい。	予算要求についてはシーリングにより減少する。畜産の多面的機能を解明するための研究については、農業総合研究センターの専門部門と連携を図り、研究計画を見直しして取り組む。

# 平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 畜産試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				開始	終了				
7	廃棄物の減量化・リサイクルの推進	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	堆肥・液状物等の循環利用技術の確立	農地への堆肥成分の過剰施用を回避するため、土壌循環を考慮した堆肥・液状物の還元方法を確立する。また、地域副産物を利用した堆肥化・リサイクル技術を確立する。	窒素、リン酸、カリウム及び重金属等の農地施用後の動態を検討し、環境に悪影響を与えない堆肥・液状物の循環利用技術を構築する。また、地域副産物である果樹剪定枝を利用した敷料の循環利用技術を検討する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	養分循環効率を向上させ、バイオマス利用、地域環境の保全を図る上で必要なターゲットと考えられる。	予算要求については、シーリングにより減少するが、計画どおり実施する。
8	環境と調和した事業活動の展開	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	環境負荷・悪臭低減技術の確立	消化率向上や給与飼料成分を再検討し、窒素やリン及び重金属等環境負荷物質の排せつ量を減少させる。また、堆肥化施設、養豚施設及び堆肥施用時等の環境負荷を低減する技術を確立する。	ミネラル給与や桑葉等地域有機性資源の利用による環境負荷物質排せつ量及び畜舎等からの悪臭発生を低減させる技術を検討する。また、堆肥化施設での臭気捕集技術や堆肥施用時等の環境負荷低減技術を検討する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	農業生産において具体的に家畜ふん尿循環を促進するために緊急性がある。	予算要求については、シーリングにより減少するが、従来から継続的なニーズがあるので、計画どおり実施し、技術の早期確立に向けて積極的に取り組む。
9	豊かで魅力ある農業の振興	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	堆肥を利用した牧草・飼料作物の低コスト栽培・調整技術の確立	牧草・飼料作物の生産性維持に必要な堆肥の効率的な利用方法を検討することにより、自然循環機能を活用した飼料生産を目指す。	堆肥(戻し堆肥や鶏ふん等も含む)の成分量に基づいた草地・飼料畑への堆肥施用量を明らかにする。また、牧草・飼料作物等の二毛作体系等により効率的な堆肥利用方法を検討する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	重要な研究と考えられる。なお堆肥生産そのものの研究も重要であるとする。別途、7番、8番の研究等と連携させ、良質かつ低コストの堆肥生産技術の総合研究を望む。	予算要求については、シーリングにより減少するが、関連課題と整合を図りながら実施する。
10	環境と調和した事業活動の展開	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	家畜排せつ物の堆肥化・処理利用技術の確立	良質堆肥生産のための堆肥化施設、発酵促進技術及び調製技術を確立する。また、耕種農家が求める堆肥を供給するための流通技術及び施用技術等を確立する。	堆肥の発酵促進技術や積極的な耕種部門への流通利用技術を検討するとともに、野菜等への堆肥施用を検討し、家畜排せつ物の堆肥化及び利用技術を構築する。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	資源循環型農業を広く可能とするための基幹技術開発として重要であり、従来にない視点での良質化、熟度診断、施用技術などの連携が必要と考えられる。	予算要求は減少するが、生産からユーザーまで広範囲に影響する技術であるため、これまでの開発技術を取り入れながら農業研究センターの専門部門と連携し、総合的な研究取り組みを行う。
11	豊かで魅力ある農業の振興	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	自給飼料を基本とした乳用牛飼養管理技術の確立	乳生産において、自給飼料を用いて、濃厚飼料の削減について検討し、乳牛の栄養水準等への影響を調査する。また、自給飼料を基本とした場合の経営に及ぼす影響を調査し、自給飼料を基本とした乳用牛飼養管理技術を確立する。	乳生産において、自給飼料を基本とした飼料給与が、乳牛の栄養水準等への影響を調査する。また、自給飼料を基本とした場合の経営に及ぼす影響を調査し、自給飼料を基本とした乳用牛飼養管理技術について検討する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	自給飼料を活用した乳用牛飼養技術の開発は資源循環を図る上で重要であり、経営の持続性を含めて技術化を図る必要がある。	予算要求はシーリングにより減少するが、試験については酪農経営の持続性を検討する上で重要であり、計画どおり実施し、技術の確立を図る。
12	豊かで魅力ある農業の振興	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	乳生産性と繁殖性を両立させる飼養管理技術の確立	高能力に対応した飼養管理として、栄養水準の見直しや、泌乳期に応じた管理方法などについて検討し、産乳性と繁殖性を両立させるための技術を確立する。	高能力に対応した飼養管理として、栄養水準の見直しや、能力に応じた管理方法などについて検討し、産乳性と繁殖性を両立させるための飼養管理方法について検討する。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	重要な研究で緊急性もあると考える。一方一部ではマイベース酪農のリスク管理、収益性等が注目されており、アニマルウェルフェア、環境保全、土地利用等にも留意した研究を望みたい。	予算要求はシーリングにより減少するが、試験については重要かつ緊急性も高いことから、さらに視点を広げて実施し、技術の確立を図る。

# 平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 畜産試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	実施期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
13	豊かで魅力ある農業の振興	農産物の種殖的な生産拡大・安定生産のための技術開発	繁殖豚における生産性向上技術の開発	繁殖母豚の有効利用及び子豚の離乳後事故率改善につながる飼養管理技術の確立。人工授精技術(以下AI)の普及につながる精液希釈液の開発、豚精液の凍結保存技術の実用化。	飼料給与法や繁殖管理などの飼養技術について検討を行う。精液希釈液は利便性に重点を置いて開発を行う。凍結保存技術は従来技術を改良し、受胎率及び産子数の向上を図る。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	重要な研究で緊急性もあると考える。繁殖管理・飼養管理技術の研究では、時代動向を踏まえアニマルウェルフェア、環境保全等にも留意した研究を望みたい。	予算額は減少するが、時代動向を踏まえ、広い視野で取り組むこととしている。
14	豊かで魅力ある農業の振興	農産物の種殖的な生産拡大・安定生産のための技術開発	経年草地の草勢回復技術の確立	現在では体系化されていない劣化した植生を迅速に把握し、評価するシステムを構築する。また、薬剤使用を抑えた雑草の抑制と播種の効率化、堆肥施用を軸とした利用方法の改善による持続的な生産技術を確立する。	劣化した植生を把握、評価するとともに、薬剤を抑えた火入れに代わる雑草抑制技術、また、播種後の定着を促進する技術を確立し、堆肥施用を取り入れた飼料畑の生産性を向上させる。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	高生産性草地への転換を目指した簡易更新技術の開発は、牛生産の基盤である公共草地の低コスト持続的利用に必要な技術開発と考えられる。	予算額は減少するが、簡易な植生調査法に対する関心は高いことから計画どおり実施する。
15	豊かで魅力ある農業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	銘柄福島牛の効率的肥育技術の確立	産地間競争激化、国際化、食品への安全志向等牛肉を取り巻く環境は厳しく、これらに対処するため、より一層の生産性向上や銘柄「福島牛」のブランド化を推進するための高品質化・高位平準化を図るための肥育技術を開発する。	肥育素牛の能力を最大限に引き出すための育成期から出荷までの高度栄養・飼養管理技術を改善・開発し、産肉成績を検証する。また、畜舎、環境、飼養管理等における快適さの指標を牛の生体モニタリングにより調査し、安心・安全な肉牛生産に反映する。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	重要な研究で緊急性もあると考える。一方で、アニマルウェルフェア、環境保全、景観形成、土地利用等にも留意した研究を望みたい。	予算額が減少するが、家畜及び環境へ対する負荷低減を考慮した上で計画通り実施する。
16	豊かで魅力ある農業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	高栄養自給飼料の調整利用技術の確立	栄養価の高い良質な自給飼料を生産し、それらと混合することにより低品質粗飼料の利用率を向上させる。また発酵飼料の品質保持技術を確立する。	高栄養自給飼料生産のための混合(低栄養、成分のばらつき、発酵不良、ミネラルバランスの崩れ等)調整技術等を検討する。また、良質発酵、品質保持のための添加剤並びに資材について検討する。	18	22	C	低品質粗飼料の品質改善による自給飼料の増産・利用拡大を図るためには、品質保持技術のほか、併せて刈取・調整段階における品質の均一化技術についても確立する必要がある。	生産現場での技術開発要件を明確にすることにより、自給飼料の低コスト生産技術とする体系化が期待される。	予算要求については、シーリングにより減少するが、生産現場の実態により即したものとするため、一部計画を見直して実施する。
17	豊かで魅力ある農業の振興	経営管理技術及び生産・流通システムの高制度化	黒毛和種繁殖牛群のデータベース化による最適交配システムの開発	最適交配システムを構築することにより、県内肉用牛の能力向上と繁殖雌牛群の効率的な改良を進める。	県内雌牛の産肉性や種牛性の育種情報、血統をデータベース化し、主な種雄牛との交配シミュレーションによる最適交配支援システムを開発する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	重要な取り組みで緊急性もあると考える。	予算額が減少するが重要な課題であることから、計画通りに実施する。